

美容外科の医師の視点から見た怪我を治す方法

美容外科というと、まず頭に思い浮かべるのが、若い女性が目を大きくしたり、鼻を高くしたりすることです。現在の美容外科では、傷が残ったりというイメージはもはや無くなりつつあります。こうした結果が得られるのは美容外科の高い技術レベルがあるからなのです。

美容外科といっても、基本技術は形成外科とほとんど変わりません。形成外科が一般外科と違い、縫合用の糸は髪よりも細く、縫合する箇所も、皮膚だけでなく皮膚の下の部分も何層かに分けて縫合しています。治療後の傷はきれいになりますし、より目立たなくなるのです。私たち美容外科医も、形成外科の基本技術を持っていますから、こうした治療を得意としています。実際に当クリニックでケガをしたお子さんが治療されたこともあります。当クリニックでは海外保険も適用できますので、万が一ケガをした場合はできるだけ早く診察にいらしてください。

万が一ケガをしてしまった時、応急処置が適切であれば被害を最小限に食い止めることができます。ケガした部位を押さえて出血を止めることや、やけどならすぐに水で冷やすこと。パニックになるとそうした簡単なことも忘れてしまいます。お子さんがケガをしたら、お子さんを落ち着かせ、スムーズな治療を行うためにも、冷静に医療機関と連絡を取ってください。

万が一ケガをしても、美容外科の高度な技術を用いれば、傷はきれいに治せます。心置きなく、スポーツを楽しみ、ゴール目指して思い切りボールを追いかけてください。お子様の健やかなご成長とご健康をお祈りしています。



盛・美容外科 院長

医学博士 盛 虹明

日本形成外科学会会員

日本美容外科学会会員